

熊本県山江村 ~ 焼酎原料のさつまいも植栽 ~

[地域指定]	-
[農業地域類型]	中間農業地域
経営耕地面積	383ha
耕作放棄面積	農家 48ha 土地持ち非農家 21ha

【地域の概要】

球磨郡山江村では、農業従事者の高齢化とともに、山間部の農地を中心に遊休化が進みつつある。

【耕作放棄地解消に向けた取組の経緯】

地域の農業振興を図るため、地区内の遊休農地の状況を把握・分析し、先を見通した遊休農地の解消及び有効利用の計画を策定した。遊休農地所有者、行政、関係団体と解消対策を検討した結果、タバコ生産農家を中心に所有者と賃貸借をし、焼酎の原料となる「からいも（サツマイモ）」を栽培することで、遊休農地の解消を図った。

耕作放棄地解消に向けた取組

耕作放棄地解消面積：8.7ヘクタール 取組時期：平成17年度～

からいもの栽培により、担い手農家がお互いに情報交換し協力して栽培することで、作付面積が平成18年度7.5ヘクタール、平成19年度8.7ヘクタールと栽培面積が拡大し、収益が向上した。特に認定農業者は、利用権設定の補助金制度もあり、耕作放棄地の解消につながった。

【現地写真】



事業が施行される前の農地



事業により整備された農地

熊本県大津町 ~ 地域集落営農による耕作放棄地の解消に向けて ~

[地域指定]	-
[農業地域類型]	平地地域
経営耕地面積	1,848ha
耕作放棄面積	農家 84ha

【地域の概要】

本町の農業は、阿蘇外輪西部に連なる広大な山林、原野地帯とそれより続く緩やかな傾斜をなして広がる北部畑地帯と阿蘇山を源として東西に貫流する白川のながれによって形成され、肥沃な水田地帯の中部平野と阿蘇外輪山南部から熊本空港へと連なる南部畑作大地からなり、いずれも、その地域の特性を活かした水稻、麦野菜、酪農、肉用牛、養豚、花卉など多くの農業生産活動が行われている。

耕作放棄地の発生原因としては、大きく分けて2つのことがあると思われる、まず1つは、兼業化の進展、輸入農産物の増加による価格の低迷、2つ目がこれに伴う農業後継者の減少、高齢化であり、不耕作地、荒廃農地が増大している。

【耕作放棄地解消に向けた取組の経緯】

平成15年、水田転作の中で農地の不耕作地が目立つようになり「だいたい大津町にはどれくらいの遊休農地があつたらうか」が調査の始まり。平成16年度の農業委員会の取組みとして、遊休農地の調査と農地所有者の意向調査を実施。平成17年3月現在122ha、平成18年5月再度調査して、その結果38ha減少し84haとなり、平成21年3月末時点では横ばいで推移している。

耕作放棄地解消に向けた取組

耕作放棄地解消面積：38ヘクタール 取組時期：平成16年度～

平成19年度から品目横断的事業が始まることで、平成17年11月から説明会の準備にはいり推進してきたことが成果としてでてきた。もともと大津町の農業形態は、土地利用型で、大型機械利用組合が、そのまま集落営農組織（17地域立ち上げ）に移行できた。又、大津南部の青汁（甘藷植え付け）が約3～4ha増えている。大津中部の平川東部では、麦植え付け3～4ha作付け増。北部の水田、約3～4haもある。

大津町の農業は、大型機械利用組合を中心とした土地利用型で推移してきた。平成17年度から同組合を集落営農組織（17地域立ち上げ）へ移行するための説明会や設立準備を推進する中、平成19年度からの品目横断的事業の取組を機に、地域一体となって耕作放棄地の解消に取り組んだことが解消につながった。

平成21年3月末時点の耕作放棄地は、耕作再開が14.7haとなったものの、新規耕作放棄地が12.8ha生じたため84haとなっている。

【現地写真】



熊本県天草市 ~ 遊休農地を活用した都市との交流 ~

[地域指定]	-
[農業地域類型]	中間農業地域
経営耕地面積	383ha
耕作放棄面積	農家 48ha 土地持ち非農家 21ha

【地域の概要】

ポンカンなどの柑橘系の果樹栽培を主にした農業地域であるが、過疎化、少子化（小学校は完全複式学級）、高齢化（高齢化率 39%）が進み、「耕作したくてもできない」などの理由から遊休化

【耕作放棄地解消に向けた取組の経緯】

遊休農地を活用して、自給自足的な田舎暮らしを都市住民に提供することによる農地の保全と農村の活性化を図るため、地域の組織である「金焼校区活性化推進協議会」と連携して、地区内で遊休化している一団の場所、景観的にも恵まれている場所を候補地として選定し「トラスト農場」として復元し活用。候補農地は、市が所有者と賃貸契約を締結後、NPO 法人：グリーンソイアまくさに貸し出す「農地リース方式」とし、既に、第 1 号農場（4,600 m²）・第 2 号農場（3,700 m²）では菜種やジャガイモの植え付けを実施するなど農地として復元。

耕作放棄地解消に向けた取組

耕作放棄地解消面積：0.8ヘクタール 取組時期：平成18年度～

遊休農地を復元した農地を活用した上、地元住民と一緒に活動しており、地域の活性化にも繋がり、耕作放棄地の解消と地域の活性化の両面に良い影響を与えている。

【現地写真】



復旧前の農地の状況



復旧後の農地の状況



体験ツアーをこれまで
11回開催

熊本県天草市 ~ 空港道路を花道に ~

[地域指定]	特定農山村、半島
[農業地域類型]	中間農業地域
経営耕地面積	801ha
耕作放棄面積	農家 232ha 土地持ち非農家 246ha

【地域の概要】

比較的温暖な地域である。農産物の価格の低迷、担い手不足などから遊休農地が発生している。

【耕作放棄地解消に向けた取組の経緯】

天草空港への県道沿線にある遊休農地を有効に活用し、ひまわりと菜の花を植栽することによって、空港利用者や市民を対象に「癒しの空間」を提供することを目的として、天草空港周辺景観整備事業を利用して、まちづくり実行委員会が遊休農地の耕起及び施肥、ひまわり及び菜の花の種まき、その他栽培に必要な作業等を行った。

【事業の転換】

平成21年度より、対象範囲を市全域に拡大し、景観作物を植え付け、耕作放棄地を解消しようとする団体に対し2万円/10aの補助を実施するよう事業を転換した。

平成21年度の予算額は140万円(7ha分)。そのため、当委託事業は平成20年度をもって終了した。

耕作放棄地解消に向けた取組

耕作放棄地解消面積：0.8ヘクタール 取組時期：平成18年度～平成20年度

市民をはじめ、空港を利用する人達にイメージアップが図られており、遊休化していた農地が有効に活用されている。

【現地写真】

